

学校評価シート

<p>東海市立大田小学校</p> <p>住所 東海市大田町細田23番地 電話番号 0562(32)6272 児童/生徒 505名 校長名 相江竜秀 21学級 (内 特支4)</p>		<p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲良く 明るく 元気よく <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 大田町、木田町、中央町の三町内に分かれるもののコミュニティを基盤にまとまりがあり、学校にも協力的である。 	資料等			
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析 A: 良い結果 B: やや課題あり C: 課題あり	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和5年2月10日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知	①基礎基本の確実な定着と活用 ・「分かる・できる・知る喜び」が味わえる授業づくり	・児童2「授業は楽しい」 ・児童3「わかりやすい授業をしてくれる」 ・児童4「先生の話をしっかり聞いている」 ・保護者2「学校は、わかりやすい授業をしている」 ・保護者3「学校は学力の向上に努めている。」	(評価A) 児童3は93.6%、児童4は93.6%、保護者2は82.2%、保護者3は76.9%と高い水準にある。その結果、児童2「授業は楽しい」と答えた児童が83.0%となっている。昨年度と比べて、児童2・3・4と保護者2の項目の数値が上昇している。	<学習基盤の確立> 児童の授業に対する意識は確実に向上し、保護者にも伝わってきていると思われる。タブレットも使用機会が増え、児童の意欲につながっている。今後も、タブレットと家庭学習の連携等、環境整備を進めていく。 <授業力向上> タブレット等のICT機器がある程度授業で活用されるようになり、教員自身の意識が向上している一方、教員が今以上に使いこなして学習に生かしていくことが課題となっている。学校として現在の課題を整理しながら取り組む必要がある。	・学校と家庭との協力で改善できる事案が多いと思う。 ・ICTなど、学習方法が大きく変わり、教員の指導方法もより大変になる。教員が児童への教育にかける時間を多くとれる職場にしてほしい。 ・タブレットの使用が児童の意欲につながっていると思うが、授業が楽しい、わかりやすいことは、教員の指導・支援がよいと感じた。 ・タブレットの利便性を学習へ生かす為の方法や、それに伴う準備の進め方の確立が課題だと思う。	・現行学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点から、特に「子ども同士がつながる」をテーマに授業改善を今後も進めていく。 ・各学年で家庭学習の分量や課題の出し方などを工夫し、家庭学習や望ましい学習習慣定着を図るとともに、通信等を活用し、保護者への情報発信を行う。 ・タブレット端末を含め、ICT機器の活用を積極的に行っていく。 ・読書ボランティアを再開を試み、読書活動のよりよい充実につなげる。
	②学習基盤の確立 ・学習環境整備(学習規律の定着と家庭学習の習慣化)	・児童8「忘れ物をしていない」 ・児童9「家庭学習をしっかり行っている」 ・保護者17「家庭学習の習慣が身についている」	(評価B) 児童9が90.8%、保護者17が77.0%であり、家庭学習の重要性を意識した取組の成果が表れている。児童8は75.2%で、昨年度に比べ数値が5%以上低下している。	<あいさつの励行> 児童が主体的にあいさつに取り組めていることは肌で感じているが、まだ全員十分であるとは言えない。あいさつの意識を高めるため、児童会、生活委員会を中心とした活動を進めていく。また、地域や保護者と連携をしているあいさつ運動を継続する。 <読書活動の充実> 読書への意識が高い児童が多いが、より多くの児童が読書に親しむことができるように、読み聞かせなどの活動を再開していきたい。 <道徳教育の推進> 学校が意識して取り組んでいることが保護者にしっかり伝わっている。今後も「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりを継続して進めるとともに、道徳授業の参観や評価を通じ、保護者の理解を更に図っていく。	・コロナにより話すことの規制を経験した児童が、話す、挨拶することへの移行期だと思う。 ・読み聞かせボランティアを再開し、低学年からの読書の意識付けをさせたい。 ・コロナ禍も落ち着き、マスクも取れるようになり、挨拶も向上していると思う。挨拶の取組など、よいことを継続して行ってほしい。 ・教員が言葉遣いやルールを守ろうと指導していることが昨年より大きく増えている。すぐに身に付くものではなく、根気があることだと思う。 ・特に高学年と廊下ですれ違うときに挨拶をしてもらえることが増えた。	・特別活動指導部と生徒指導部で連携し、あいさつの意義を強調するとともに、あいさつ運動の一層の充実を図る。 ・道徳教育推進教師が中心となり、道徳的価値を高め、日常生活での実践力向上を図る。また、保護者にわかりやすい評価方法の工夫を進める。 ・生徒指導部と特別活動指導部を中心に、全職員で市で定めたいじめ防止宣言を意識した教育活動を進め、いじめのない学校を目指す。 ・日常の教員による率先垂範で挨拶への意識を更に高めていく。
	③現職教育・研修会の充実と教師個々の資質向上、授業力向上	・教員2「教材研究に努め、わかる授業を実践している」 ・教員3「研修会等に参加するなど、力量向上に努めている」 ・教員4「基礎学力の定着を意識している」	(評価B) 教員2は85.7%、3は85.7%、4は90.5%である。授業力の向上と、基礎学力の定着に努めているものの、2・4は昨年度より若干低下している。	<基本的な生活習慣の定着> 保護者の協力により、よい生活習慣が定着している児童が多い。さわやかカードを継続するなど、家庭への啓発や協力を求めていることで、心身の健全な成長へとつなげる。 <危機対応能力の向上> 保護者の災害・犯罪に対する安全意識が向上し、学校安全への期待も高いと考えられる。過去の事例等を参考に訓練内容や実施方法の改善を続けていく。 <運動に親しむ機会の確保> 大放課に遊ぶ時間を十分に確保したことで、外遊びの数は増えており、今後も外遊びを励行していく。また、児童会や運動・保健委員会など、児童主体で楽しい活動を企画していく。	・自分の命を守る判断力、行動の向上、そして外遊びを楽しみ、進んで体力作りをする力が育っていると思う。 ・年々夏が暑くなり、外遊び、外体育が難しい中、頑張っていると思う。	・保健主事、養護教諭が中心となり、「さわやかカード」を継続して実施し、児童の生活習慣の課題を洗い出し、校医等の指導を受けながら課題解決に向けた対策を推進する。 ・校務主任が中心となり、児童、職員の危機対応能力向上に向けた取組を進める。 ・新しくなった遊具等、運動場の環境を生かし、体育主任が中心となり、日々の遊びの活動の中から心と体の健康づくりを継続する。 ・引き続き外遊びの奨励、体育主任が主体となって縄跳び活動の充実など、体力づくりの取組について検討する。
徳	①あいさつと規範意識の向上	・児童12「毎朝、大きな声であいさつをしている」 ・保護者16「家庭や地域の方にあいさつをしている」 ・地域3「子どもたちは地域の方にあいさつができています」 ・児童15「きまりを守って学校生活をしている」 ・児童16「掃除や係活動をしっかり行っている」	(評価B) あいさつでは児童70.6%、保護者77.0%、地域72.2%である。昨年に比べ、児童・地域ともに数値が向上している。児童の規範意識は高く、数値も児童15は96.8%、児童16は98.6%と高水準である。	<道徳教育の推進> 学校が意識して取り組んでいることが保護者にしっかり伝わっている。今後も「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりを継続して進めるとともに、道徳授業の参観や評価を通じ、保護者の理解を更に図っていく。	・地域行事、特に大田まつりは地域の大人から子どもまで縦のつながりもあり、大人たちが子どもたちを見守りながら支援したり、関わったりしていると思う。伝統行事の参加はともよいと思う。 ・大人のコミュニティが低下している中、子どもや小学校を中心とした新たなコミュニティが必要である。子どものために小学校をよくし、小学校をよくするために町内会、祭り団体、商工業者が小学校を支援していく形を作りたい。 ・必要としているボランティアの参加が増えていることはとてもよいことだと思う。 ・コロナ禍が明けて、縮小の一途だった地域連携も少しずつ増えてきて良かった。今後は今まで無かったような新しい連携の形が増えると良いと思う。 ・大田小学校への地域の方、保護者の声はともよい評価である。続けて快い活動を心がけていきたいと思う。	・教頭とコーディネーターが中心となり、児童や教職員のニーズを把握し、情報を保護者、地域へ発信し、協力を得る。そのために、学校支援協議会の活動を学校ニュースやブログで紹介するなど、保護者や地域の方に、一層身近に感じられるようにする。 ・これまでどおり、地域祭り団体と連携し、大田まつりを中心とした地域行事への理解、参加を促していく。
体	②体験活動と読書活動を重視し、豊かな情操を培う。	・児童11「読書をすることが好きである」 ・保護者18「子どもは、本を読む習慣が身についている」	(評価B) 保護者51.8%であるが昨年度より若干低下している。しかし、児童は77.1%で、昨年度より向上している。家庭での状況と学校での状況に少し開きがある。			
	③道徳教育の推進	・保護者4「学校は、道徳や体験活動などを通して、豊かな心を育てようとしている」	(評価A) 道徳については、保護者設問4は84.3%である。昨年より数値が上がっている。			
	①基本的な生活習慣の定着	・児童18「早寝、早起きができています」 ・児童19「毎朝、朝ごはんを食べてきています」 ・児童20「毎食後、歯みがきをしています」	(評価A) 児童18は70.6%、児童19は94.5%、児童20は94.5%で、すべての項目で数値は同等または向上している。			
地域連携	②安全への意識を高める。	・児童21「いつも交通安全に気を付けている」 ・児童22「地震や津波が起きたらどうしたらよいかわかっている」 ・保護者7「非常時の対応など、安全指導をしっかり行っている」	(評価A) 児童21は95.0%、児童22は95.4%、保護者7は80.3%であり、児童の数値は、昨年とほぼ同等か向上している。保護者は若干低下しているが、大きな変化ではないと考えられる。			
	③心と体の健全育成を図る。	・児童17「大放課には元気に外で遊んでいる」 ・保護者5「学校は、心と体の健康づくりに向けた取り組みをしっかりとっている」	(評価B) 保護者5は71.7%で、昨年度より若干下がっている。体力づくりについては、児童設問17で40.4%と昨年よりかなり上がっているが、十分といえる数値ではない。			
地域連携	①学校支援協議会を通して、教育の人材による支援体制を整備する。	□学校支援ボランティアについて ・保護者12「学校支援ボランティアの参加・協力で、教育活動や環境整備が充実してきている」 ・地域10「学校支援ボランティアに参加したいと思っている」	(評価B) 保護者12は、75.9%で、昨年よりかなり上がっている。地域10は、47.8%で数値は下がっているものの、積極的に支援ボランティアに参加している人は実際には増えている。	<支援協議会活動の充実> 支援体制は充実し、参加者数も増えているが、まだまだ情報が地域に十分行き届いていないと思われる。今後も、ブログ等を使って学校の様子を更に地域に伝えながら、一層の支援ボランティアの拡充を進めていく。 <地域行事への積極的参加> コロナが明け、これまで自粛してきた活動ができるようになってきた。「大田まつり」等の地域行事のよさをより児童に伝えていくためにも、教員が地域行事の理解を深めていきたい。		
		□地域との連携について ・児童23「地域の行事に参加している」 ・保護者19「地域の行事に積極的に参加させている」 ・地域1「大田小学校はよい学校だと思う」 ・地域4「学校は、地域の活動や行事によく協力している」	(評価A) 児童23は79.1%、保護者19は60.2%、地域4は67.8%で、すべての項目でかなり向上している。地域の祭りがコロナ以前に戻ってきたことがかなり影響していると考えられる。			